

# 細やか・自在に 気象情報

民間気象会社「アップルウェザー」を立ち上げて18年。県内の様々な気象情報を、テレビや新聞、ホームページなどで発信してきた。自宅兼オフィスからラジオを通じて伝える週5回の天気予報は、設立時から続けている。

「晴れのちくもり」ではなく、『昼ごろまで』晴れのちくもり」。県内の気象情報に特化しているからこそ、より詳しい情報提供を心がけている。タイヤの交換時期やピールの飲み頃といった予報もホームページ上で公開しており、「青森の人の生活に役に立つ予報をしたい」と話す。旧車力村（現つがる市）出身。五所川原工業高校を卒業後に自動車部品会社に就職したが、「あわない」と1年で退職。職を転々とした末、22

## 民間気象会社「アップルウェザー」社長

工藤 淳さん (67)



歳の時に日本気象協会を職業安定所に紹介されたのが転機となった。人手不足で即採用されたものの、気象学は素人。ただ、何となく見ていた天気予報が何人もの人が協議したうえで

できていることを知って、予報図に「人間味」や「奥深さ」を感じるようになった。通信教育で勉強を重ね、1995年に気象予報士の資格を取った。49歳の時、もっと自由に気

象情報を伝えたい、と独立。企業向けのオーダーメイド天気予報を主に扱うようになった。ホタテの養殖は強風や高波のもとでは作業できないため、波の高さや風の強さの情報を提供する。どの養殖場で作業すれば最も効率的なのかを判断してもらうためだ。「1次産業の多い青森にとって、天気の情報はとても大切。天気一つで売り上げや作業効率が変わってくる」

2005年に防災士の資格を取得し、防災にも力を入れるようになった。県防災士会を立ち上げ、災害時に防災士同士が連携できる体制を整えた。自主防災組織率が低いことを訴え続け、12年からは県の基本方針を決める総合計画審議会のメンバーにも入っている。これまでに得た能力と人脈を後進に伝えるため、講演やボランティア活動にも積極的だ。「まだまだ休んではいけない」

(山本知佳)